



THE RECORD

2003.12
No. 529

Essay ~レコードと私~

谷村 新司 (歌手)

Special Feature

拡がる音楽DVD市場

● レコード業界主体の音楽配信サービスの新しい展開

(株)レーベルゲート 代表取締役社長 高堂 学

● 連載Column: Music & Law

音楽CDと商標 弁護士 前田 哲男



社団法人 日本レコード協会

谷村 新司 (歌手)



谷村 新司(たにむら しんじ)

1948年大阪市出身。1971年、堀内孝雄と「アリス」を結成。翌72年にシングル「走っておいで恋人よ」でデビュー。81年の活動休止まで、「チャンピオン」「冬の稲妻」など数々のヒットソングをリリース。伝説のバンドとして名声を博した。ソロでも山口百恵の「いい日旅立ち」や加山雄三とのデュエット「サライ」、大ヒット曲「昴」などを発表し、日本を代表するアーティストとして活躍。またロンドン交響楽団との共演やアジア平和音楽祭出演など、アジアを中心に海外活動も積極的に行っている。

レコードは自分にとって一番身近なタイムカプセルです。開けてみるとその時埋めた記憶のひとつひとつが鮮やかに蘇ってきます。

2003年秋、鬼束ちひろさんの歌う「いい日旅立ち・西へ」という曲がリリースされました。この曲は僕が昭和53(1978)年、当時の国鉄が実施した「いい日旅立ちキャンペーン」を歌う山口百恵さんのために書き下ろした曲をJR西日本「DISCOVER WESTキャンペーン」用にリメイクしたものです。テレビのCMではサビだけなのでお判り頂けませんが、オリジナルでは「雪解けへ」と北へ向かっていた歌詞を瀬戸内への旅情を誘う内容に殆ど作り替えました。「カラオケでも十八番です、この曲を歌うのは私しかいません」というほどのほれ込みようだった鬼束ちひろさんは録音当日スタジオで百恵さんの原曲を聞いた時、「完璧な楽曲ですね。隅々まで集中して歌い切らないと情感が表現できません。(百恵さん)に対抗しないで自分の歌を歌います」と言ってスタジオに入っていったのですが、僕は全く違う思いでこの曲を聞いていました。「いい日旅立ち」を作り上げた時、実はあまり自信がなかったのです。当時百恵さんは「プレイバックPart2」「絶体絶命」とノリに乗っている時でした。本当にこの楽曲で良いのだろうか?と一抹の不安が残っていました。作り直すことも覚悟の上、百恵さんに恐る恐る電話すると「凄く良い曲ですねえ」と言ってくれました。僕はホッと

て一呼吸あけて「凄く…良い曲でしょう!」と答えたのを思い出しました。レコードに封じ込められていた25年間分の思い出が魔法のランプを擦ったような形で現れました。

そんな僕もアリスのデビューから33年目を迎え500曲以上の楽曲から32曲を僕自身で厳選した2枚組のセルフベストアルバム「アリガトウ」を12月3日にリリースしました。このタイトルはファンやスタッフをはじめ今まで僕を支えてくれたすべての人たちへの感謝の気持ちです。なぜなら僕は来年以降全国ツアーを当面お休みすることにしたからです。「今まで出来なかったことをやろう」その柱となるのが中国での活動です。81年にアリスとして日本人で初めて北京でライブをした時「僕のルーツは大陸なんだ」と直感しました。以来、中国をはじめとするアジアとの音楽交流を積極的に進めてきた結果、昨年の日中国交正常化三十周年記念の北京公演につながりました。僕のものやるべき事は大陸と日本に橋をかけることです。すでに日本でも人気の中国男性俳優で歌手の毛寧さんのアルバム・プロデュースも手がけました。日本のアーティストたちの大陸進出にも手を貸したいと思っています。つまり僕にとって2004年は新たな気持ちで「いい日旅立ち」となるはず。

余談ですが鬼束ちひろさんがこの曲を好きになった訳を聞いてみたら「百恵さんと同じ年の母が大好きで、車の中でいつも聞いていました」という話を百恵さんに報告したら「ちょっとショック」と漏らしていました。

企画・構成：木崎 徹

表紙の楽器

バラライカ

18世紀中頃から、ロシアの農民をはじめとした民衆の間で流行した撥弦楽器。既にマンドリンなどが普及していた歴史的背景もあり伝統楽器というには新しいが、ロシアの民族性、伝統を反映した新しい民族楽器による伝統音楽の発展に寄与した。演奏技術の習得が比較的容易だったことなどから音楽教育の教材としても普及し、「国民的」な楽器として認知されるようになった。

Contents

Special Feature	
拡がる音楽DVD市場	2
レコード業界主体の音楽配信サービスの新しい展開	6
連載Column: Music & Law	7
Topics & Information	8
World News Clip	11
Monthly Production Report	12
今月の数字	13
Gold Album+...認定	14

広がる

音楽

DVD

市場

「聴いて観よう! 音楽DVD」キャンペーンがスタート

前号のトピックスでお知らせした通り、この12月から当協会加盟24社は、2カ月間にわたる「聴いて観よう! 音楽DVD」キャンペーンを実施しています。前年比1.8倍のペースで増産され、勢いづく音楽DVD。その需要促進を図り、今後の売上拡大への大きな流れを導くきっかけにしようというものです。今回の特集では、キャンペーン実施の背景やねらい、アプローチの基本的な考え方などをご紹介します。

2003.12.1^{MON} ▶ 2004.1.31^{SAT}

※応募締切:2004年2月10日(当日消印有効)



音楽DVDを買って、AV機器を当てよう!!

A賞

A-1



10名様

液晶<ベガ>KLV-15SR【ソニー(株)】

A-2



10名様

DVDオーディオ/ビデオプレーヤーSD-5500【(株)東芝】

A-3



10名様

マイクロコンポネントDVD/VCRシステム「リップラップ」(UX-W7DVD) ※DVDオーディオ対応(11月16日発売新製品)【日立コスター(株)】

A-4



10名様

スーパーオーディオCD/DVD搭載コンボCMT-SE3(11月発売新製品)【ソニー(株)】

A-5



13名様

ホームシアタープロジェクターTLP-ET1J(新製品)【(株)東芝】

A-6



10名様

DVDオーディオ/ビデオプレーヤー(XV-A77) ※マルチディスク再生対応【日本ビクター(株)】

B賞

1,000名様

音楽ギフトカード 2,000円分 日本レコード普及(株)



ご応募の詳細は裏面をご覧ください。

RIAJ

社団法人日本レコード協会加盟24社

<http://www.riaj.or.jp/> <聴いて観よう!音楽DVD告知ページにてキャンペーン参加店紹介>

音楽DVD市場の さらなる活性化へ向けて



「^き聴いて^み観よう! 音楽DVD」キャンペーンは、当協会加盟24社による統一キャンペーンとして全国展開されています。年末年始の商機に合わせて実施されるもので、充実した音楽DVD商品のラインナップと魅力ある景品をそろえてアピールし、良質の音楽を迫力ある映像とともに楽しむことを一般に広く訴えて、浸透を図ります。

■ 期待される音楽DVDをどう広げるか

音楽DVDは、ここ数年、順調な成長を遂げており、今年に入ってから売上大幅に伸びています。生産実績でも1月～9月で対前年同期比約1.8倍の増加を示しました。また、世界の主な音楽市場でCDの売上が停滞するなか、CDだけではなく、映像作品も含めた音楽ソフト全体で売上拡大を図っていくとする動きが、国際的な潮流となってきています。今後、音楽DVD市場が拡大していくことは、世界のレコード産業関係者の共通した認識です。しかし、「DVD」はまだ、映画やアニメを見るものとしてとらえられることが多く、「音楽DVD」の市場はまだ未成熟です。ここでさらに音楽DVDの魅力アピールすることが必要不可欠です。

「聴いて観よう! 音楽DVD」キャンペーンの最大のねらいは、音楽DVDという商品ジャンルをよりポピュラーなものにしていくことです。具体的には、DVDは映画だけではなく、音楽の魅力を増強するものでもあること、つまり、高音質の音楽とともに、DVDの迫力ある映像で、新しい音楽の楽しみ方を認知していただくことです。年齢層別には、特に70～80年代に音楽を聴いていたシニア層に対して、往事のライブ映像を中心に懐かしさを感じてもらい、若い世代には音楽と映像のミックスした新鮮さに興味

を抱いてもらうことが重要なキーとなります。

会員各社では、年末年始商戦を前に、主要アーティストの音楽DVD商品に加え、低価格の旧譜商品をそろえ、音楽DVDのラインナップを充実させることで、上記のターゲットへ戦略的にアプローチしています。当キャンペーンを展開するにあたって、非常に有効な環境が整ってきています。

■ 会員全社、ハードメーカー、販売店が一体となったキャンペーン

会員各社の積極的な商品ラインナップの拡大により、カタログ数はキャンペーンを行うのに十分な5,000タイトルを超えるまでになりました。ジャンルについても、J-POPから演歌、歌謡曲、洋楽ロック、クラシック、カラオケまで、ほとんどの分野が網羅されています。一方で、ハードウェア面でも求めやすい価格帯の機器が増えたことにより、一般家庭へのDVDプレーヤーの普及が急速に進んでいます。当協会では、年末年始という時期と相まって機が熟したと見て、会員社すべてによる「聴いて観よう! 音楽DVD」キャンペーン実施へのサポートをすることとしました。この年末年始にかけては、先に述べたように低価格のリバイバル映像商品を含めて、各社とも多様な商品を投入し、拡販へ

向けたさまざまな施策を展開しています。当キャンペーンは、会員各社が独自に展開するキャンペーンと連携することで、相乗効果を生み出すことが期待されます。また当キャンペーンでは、電気・電子機器メーカーの支援を得て、消費者にアピールする魅力的な景品を多数そろえることができました。まさに音楽ソフトとハード業界が一体となった中身の濃いキャンペーンとなっています。

■ 販売店にメリットをもたらす効果的な施策として

当キャンペーンは、「聴いて観よう! 音楽DVD」というキャッチフレーズの下、全国の参加店店頭で展開されています。店頭在庫の音楽DVD全商品を対象に、購入されたお客様に応募ハガキを配布し、2カ月のキャンペーン期間中に応募された方の中から、抽選で景品をプレゼントするというものです。参加店舗数は約1,200店。このうち、大規模店では、独自にあるいはレコード会社とともに、年末年始のキャンペーンを積極的に展開していますが、これらの施策と組み合わせることで、プラスアルファの相乗効果が得られます。一方、中小の販売店においては、大規模なキャンペーンとして活用してもらうことが可能です。消費者に「この時期に音楽DVDを購入して非常に良かった」と思っただけであれば、実際の購入に結びつき、それをきっかけに音楽DVDの素晴らしさを体験してもらうことが、その後の需要促進にもつながっていきます。

店頭でのPRに加えて、雑誌を通じてもこのキャンペーンの認知度向上のプロモーションが行われているほか、当協会ホームページでもキャンペーンの内容紹介とともに、参加店の住所・連絡先データを掲載しています。これは、どこにあるどのお店がこのキャンペーンに参加しているかの認知度を高めるた

めに役立っています。

当キャンペーンは、店頭在庫商品の販売促進を主目的とするものです。販売店に有効活用してもらうことで、大きなメリットが生まれることが期待されます。



キャンペーンチラシ裏面

● 音楽DVD新譜タイトル数

単位：タイトル

	2002年(1月～12月)	2003年(1月～9月)
邦楽	462	502
洋楽	429	341
カラオケ	101	83

■ 将来にわたる販売促進の持続へ向けて

このキャンペーンのもたらすプラスアルファ効果により、12月～1月の音楽DVD販売実績が、前年より大幅に増加することが見込まれます。そして、ただ単に売上増が達成されるばかりではなく、音楽DVDの良さが幅広い層の人たちに認識され、音楽をさまざまなかたちで楽しむファン層のベースが広がり、その結果、音楽DVDはもとより、レコード販売店を通じたCDの需要拡大への波及効果が現れることも期待されます。

「聴いて観よう! 音楽DVD」キャンペーンは、日本のレコード業界として初めての音楽DVDに関する統一キャンペーンです。当協会、会員社、ハードメーカー、販売店のそれぞれが手を携えて展開されているキャ

ンペーンが、レコード産業全体に盛り上がり、音楽DVD普及・促進への流れが更に、太く強く育っていくきっかけにしたいと考えています。キャンペーンの効果については、終了後に分析し、今後の諸施策への参考としていきます。



RIAJ Interview

「聴いて観よう! 音楽DVD」キャンペーンがスタートした12月初旬。当キャンペーンに参加する新星堂・横浜ジョイナス店を訪れ、店長の源 正勝さん、映像担当の行方裕さんに、音楽DVDの手ごたえやキャンペーンへの期待を伺いました。

● 音楽DVDの盛り上がりアピール …… 新星堂・横浜ジョイナス店

- 店長 みなもと 源 正勝氏
- 映像担当 なめかた 行方 裕氏

新星堂・横浜ジョイナス店は、ターミナル駅としてにぎわう横浜駅に連なるビル構内にある。280坪に及ぶ店舗で、ジャンルごとに音楽DVDコーナーを設け、積極的な販売を展開している。

源「音楽DVDは、11月に入って旧譜を含めたタイトル数が急速に充実。店側で展開しやすくなり力を入れています。「聴いて観よう! 音楽DVD」キャンペーンは「音楽DVD」という文字をボンと目立たせています。商品カテゴリー全体を前面に出してもらえるので非常にメリットがあると感じています。」

DVDプレーヤーを購入した人が、その足で店を訪れ、音楽DVDを購入していくケースも増えているという。

行方「タイトル数が充実したことが、ハードの普及をさらに促し、音楽DVD購入へつながらんという好循環ができてきました。音楽DVDが皆さんに親しまれ、普通に安心して購入できる商品になったと実感しています。」

源「出だしは好調です。当店舗でも独自に音楽DVDセールを行っていますが、店側のキャンペーンはどうしても商品に偏りがち。協会のキャンペーンと併用することで、音楽DVDが注目されていることを、強く訴求できます。幅広い層の方々に身近に感じていただけるように、いろいろなアプローチができることは大きい。年末にかけてどんどんアピールしていきたいですね。」

レコード業界主体の音楽配信サービスの新しい展開

8月号の特集「音楽とネットワークの正しい関係」でご紹介した株式会社レーベルゲートでは、今冬から「アルバム」の配信を開始するなど、レコード会社が主体となった音楽配信事業をさらに推進しています。これらの取り組みについて、代表取締役社長の高堂氏にご寄稿頂きました。



高堂 学(こうどう まなぶ)

株式会社レーベルゲート 代表取締役社長

1948年長野県出身。早稲田大学卒。1971年株式会社ホリプロダクション入社。1974年株式会社シービーエス・ソニー(現ソニー・ミュージックエンタテインメント)入社後、株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ取締役クリエイティブ部長、株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントデジタルネットワークグループ本部長、株式会社エスエムイー・ティーヴィー常勤監査役を経て、2003年9月より現職。

レーベルゲートは、音楽配信ビジネス本格化に対応すべく、この10月に第三者割当増資を行いました。その多くをSME(ソニー・ミュージックエンタテインメント)が引き受けたことにより、出資比率の約8割がレコード会社(17社)によるものとなりました。残り約2割は、決済システムやカスタマーサポートを担うソニー・コミュニケーション・ネットワークが持ちますが、レーベル主体の音楽配信会社という位置付けがさらに明確になったわけです。もちろん、出資の有無にかかわらず、未参加のレーベル各社との間でも配信実施に向け具体的な検討に入っています。

私は、SMEでプロモーションサイトや音楽配信サイトの立上げと運営に携わり、レコード協会のプロジェクトで協会の音楽ポータルサイトや通産省(現経済産業省)委託事業「総合音楽データベース開発プロジェクト」等に関与してきた経緯もあったためか、今回の資本移動を機にレーベルゲート代表を拝命することとなりました。

レーベルゲートは2000年4月の設立以来、配信タイトル数、販売楽曲数ともに年々倍増していますが、この11月時点では約7千曲、月約8万ダウンロードが実績です。01年後半からのADSLの急増で、ブロードバンドは一気に10倍の1千万加入を超えました。並行してレーベルゲートも販売数急増を期待していましたが、実際には2年遅れの今から急上昇ラインを目指すビジネスプランとしました。

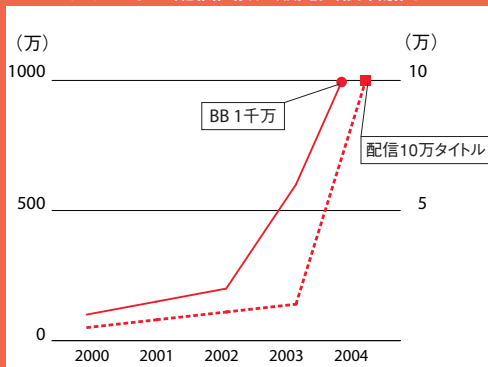
まずは、最大のユーザーニーズと思われる大量の品揃えが急務であり、年内から来春にかけて5万曲、夏には最低でも10万曲を、各レーベルのご協力により用意したいと考えています。この大量のエンコード(配信用圧縮)作業と楽曲情報データは、かなりの部分をjmd(ジャパンミュージックデータ)社のご協力で実現することになると思われます。

前述の「総合音楽データベース」の基本部分を引き継ぎ、レコード店向けに試聴音源やジャケ写、商品データを提供しているのが「jmd」であり、当初の開発目的にあった協会加盟社共有の有料配信インフラが「レーベルゲート」にあたるでしょうから、RIAJの「総合音楽データベース」構想も6年経ってようやく実りつつあるといえるでしょう。

レーベルゲートは、従来の各社有料配信サイトのバックヤードから、今後はユーザーに向けた総合的なワンストップ・ショップとして積極的にブランド力アップを目指します。同時に、購入手続やダウンロードからポータブル機器転送手順等のユーザビリティ向上を進めます。アルバム配信も可能となり、音楽ファンの誘導も加速すると思われますし、新たな需要開拓をレーベルの皆さまと一緒に企画していきたいと考えています。

AppleのiTunesにしろ新生Napsterにしろ、米国では結果的にIT企業がイニシアティブを取っています。日本ではレコード業界主導のレーベルゲートが、秩序ある有料音楽配信によって、音楽産業発展に大きく寄与できるものと信じています。

ブロードバンドの普及実績とレーベルゲートの配信曲数・販売実績増加イメージ





前田 哲男(まえだ てつお)

1961年和歌山県出身。84年司法試験合格。85年東京大学法学部卒。87年弁護士登録。以後、映像、レコード、ゲームソフト、ソフトウェア、書籍等の著作権関係を中心とする法律事務に携わる。現在、当協会顧問弁護士を務めるほか、文化審議会著作権分科会専門委員、早稲田大学社会人大学院非常勤講師、社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会理事、不正商品対策協議会監事、社団法人映画産業団体連合会監事などを兼任。

音楽CDと商標

音楽CDを製造・販売したり、輸入したりするときに、「商標権」はどのように関係するのだろうか。

商標とは、自分の商品やサービスを他人のものと区別するために使用するマークのことだ。商標のうち、特許庁という役所に「出願」して登録されたものを「登録商標」という。その登録を受けた人に「商標権」が発生し、商標を使用する権利を独占できる。

商標の出願や登録は、それを使う対象となる商品や役務(=サービス)を指定して行う。商標権者が独占できるのは、指定商品・役務について登録商標を使う権利だ。他人が音楽CDを指定商品として商標登録をしていると、同じ(または類似の)商標を音楽CDに付けることはできない。逆に、音楽CDに類似しない商品を指定して誰かが商標登録をしても、それと同じ商標を音楽CDに使うことは、商標権侵害にはならない(「不正競争防止法」という別の法律違反になることはある)。

音楽CDを指定商品とする登録商標と同じ文字を、音楽CDに印刷しても、商標権侵害になるとは限らない。井上陽水に「UNDER THE SUN」というアルバムがある。実は、ある個人が、音楽CD(レコード)などを指定商品として、「UNDER THE SUN」という商標を登録していた。その個人は、レコード会社を商標権侵害で訴えた。しかし裁判所は、商標権侵害でないと判断した。なぜだろうか。井上陽水のアルバムの「UNDER THE SUN」は、アルバムタイトル(題号)であって製造・発売元を表示するものではない。商標=「自分の商品やサービスを他人のものと区別

するために使用するマーク」として使っているわけではないから、商標権侵害にならないのだ。

単発のアルバムタイトルや楽曲の題名は「商標」ではないから、商標権を気にしなくてよい。逆にいうと、アルバムタイトルについて商標登録をしても、同じ題名の音楽CDを禁止できるわけでない。また、海外での海賊版対策や並行輸入品対策にも、あまりならない。

ただし、シリーズ名やレーベル名だと話は違う。一連の商品として発売する音楽CDのシリーズ名やレーベル名は、特定のレコード会社等の商品であることを示すマークになりうるから、商標権の問題になる。

商標権は国ごとに成立している権利だ。だから、同じ商標でも、日本と外国とで権利者が違うことがある。「COLUMBIA」やニッパマーク(「His Master's Voice」犬が蓄音機の音に聞き入るマーク)がその代表例だ。海外の権利者が自分の商品にこれらのマークを付けて販売することは完全に適法だが、これを日本に輸入するには、日本の商標権者の許諾が必要になる。

Topics & Information

ACCS、JASRAC、RIAJ、京都府警に感謝状を贈呈



感謝状贈呈の様子

社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会 (ACCS)、社団法人日本音楽著作権協会 (JASRAC)、および当協会の3団体は、11月5日、「オンラインストレージサービス」ユーザーに

よる著作権侵害事件を摘発した京都府警ハイテク犯罪対策室と堀川署に対し、各捜査機関を訪問して感謝の意を表しました。

この事件は、昨年夏から今年4月にかけて、インターネットを使ったデジタルデータの保管・公開サービスである「オンラインストレージサービス」を悪用して、市販の音楽CDから作成されたMP3形式の音楽ファイル及びゲームソフトを権利者に無断でサーバに蓄積し、公衆に送信できる(送信可能な)状態にしていた2名を京都府警ハイテク犯罪対策室と堀川署が、著作権法違反(公衆送信権及び送信可能化権の侵害)で逮捕したものです。

「オンラインストレージサービス」は、インターネットに接続されたサーバにデジタルデータ(ファイル)を蔵置することにより、パソコン等を使って、時間や場所による制約を受けずにファイルにアクセスできるだけでなく、パスワードを用いてグループで共有したり、一般に「公開」することができるサービスとして、ブロードバンドや常時接続環境等の整備に伴って普及しつつあります。このサービスを利用して著作物を蔵置することにより、容易に著作権・著作隣接権の侵害が起き得ることが懸念されていましたが、今回の事件は、その危惧が現実となった事例といえ、世界的にも例のない刑事摘発として、日本の著作権保護が制度・執行の両面で高水準にあることを示したものです。

府警本部では、生活安全部長室において、ハイテク犯罪対策室長に感謝状が手渡されました。各団体からは、高度な捜査技術を通じて権利が保護されたことについての謝辞が述べられ、山本生活安全部長からは、インターネットにおける犯罪に対応して、今後も適切な取り締まりを展開していく方針であることが伝えられました。その後、3団体は堀川警察署を訪問し、それぞれ正徳堀川警察署長に感謝状を贈呈しました。

ACCS、JASRAC、当協会の3団体は、今後も、インターネットユーザーに対する呼びかけや、各種の広報啓発活動、教育現場における著作権教育の支援等を広く実施し、他のコンテンツ関連団体とも連携を取りながら著作権ルールへの浸透に向けた活動を行うとともに、「速やかに」かつ「多方面から」対策を講じ、ブロードバンド時代における一層の文化発展に寄与してまいります。

世界に先駆け、商品情報、楽曲情報、権利情報等レコード産業のEDI(電子情報交換)システム運用開始

当協会では、この度協会会員社と取り組んできたレコード基本情報のEDI(電子情報交換)システムの開発を完了し、11月12日から、その本格的運用を開始致しました。

当協会では、コンテンツの流通、権利処理の円滑化のため、1999年から、会員社とともにレコードに関する基本情報のデータベース化および運用システムの研究・開発を行ってきました。このシステムはレコードの商品情報、楽曲情報、権利情報など120種類(CDアルバムに換算すると1,200項目)もの情報をレコード製作者からEDIシステムで提供を受け、当協会が管理するメタデータベースシステムに蓄積するものです。

このデータベースには既に16万タイトルの商品情報と200万曲(10月末現在)の楽曲情報が蓄積・管理されており、この情報は「れこーどばん eCATS®(Entertainment Catalog Service)」の名称で、雑誌出版社、レコード店、放送事業者等によって幅広く活用されています。

またこの情報は当協会が管理する116万曲のレコード音源検索用として、全国レコード店4,200台(10月末現在)の店頭試験機端末でも利用されています。

これに加え、今回の電子情報交換システムの完成により、レコード製作者から社団法人日本音楽著作権協会(JASRAC)への楽曲使用許諾の電子申請が開始されました。これにより許諾申請や許諾業務の迅速化、省力化が実現し、レコード製作者、音楽著作権管理事業者、実演家団体などの連携による情報交換システムが構築され、レコードの利用者に大きな恩恵をもたらすこととなります。

今回完成したEDIシステムを利用した権利情報に関するデータベースは、レコード会社が一体となって構築したものであるとして、世界的にも類を見ないものとして注目されています。本システムは、将来的にオンライン権利処理や効率的なコンテンツ流通に不可欠な基盤となるだけ

でなく、政府が提唱する「e-Japan」推進計画を実施していくうえでも、膨大な商品、楽曲メタデータを公開することでデジタル時代のコンテンツ流通に多大な貢献をするものとして期待されています。

今後コンテンツ情報の統合的な利用を目指し、映像産業、ゲーム産業などのコンテンツ産業団体ともそれぞれのメタデータベースの連携の可能性について話し合いを進めていく予定です。

下請法改正に係る説明会実施

11月18日、当協会会議室において、下請代金遅延等防止法(下請法)の改正に伴う説明会が行われました。

今回の下請法改正は、役務にかかる下請取引を同法の対象に追加すること等を内容とするもので、説明会では、公正取引委員会事務総局経済取引局取引部企業取引課の品川武課長補佐から概要をご説明頂きました。



説明会の様子

大学ネットワークを利用した音楽の不正利用対策として、全国1,200国公立大学等へ協力要請文書送付

当協会は、11月25日付で、全国約1,200の国公立大学・短期大学に対して、「大学ネットワークを利用した音楽著作物の著作権および著作隣接権侵害行為の防止」を目的としたネットワーク管理の徹底に関する協力要請文書を送付しました。

昨年12月から、ファイル交換ソフト等を利用した音楽ファイルのアップロードの実態に関する調査を定期的に行っていますが、残念ながら、著作権者及び著作隣接権者の許諾を得ない音楽ファイル等がアップロードされるケースが後を絶ちません。

更に、そのような不正行為が全国の大学のネットワークを利用して行われている例が数多くみられることから、当協会では、これらの大学に対して、ネットワーク管理に関する協力要請を行ってまいりました。これまで協力要請を行った大学は40に上りますが、いずれの大学においても、技術的対策、学生への指導、啓発活動等これらの不正行為が行われることのないよう迅速な対策が講じられています。

今回の全国公立私立大学・短期大学への協力要請文書送付は、これまでの当協会の違法対策活動を内外に告知し、著作権侵害行為に対して広く注意を喚起すると同時

に、大学との連携を強化し、大学内での著作権侵害行為の発生を未然に防ぐことを目的としたものです。

ファイル交換ソフトを利用した不正な音楽ファイルの交換は国際的に大きな問題となっており、IFPI(国際レコード産業連盟)、RIAA(アメリカレコード協会)においても、啓発キャンペーン、訴訟提起などを通じて積極的な対策が講じられています。今回の協力要請もこれらの国際的な動きに連動するものです。

当協会では、昨年秋から音楽の不正コピー、不正アップロード対策として、「Respect Our Music」キャンペーンを展開していますが、一般家庭へのインターネット、PCの普及に伴い、若年層や教育現場に対する著作権教育、著作権意識の啓発の取り組みの重要性も増しています。

今後とも、当協会では、大学等と密に連携を取りながら、著作権意識の啓発活動、音楽の不正利用を防止するための活動を実施してまいります。

181組のアーティストの参加による「Respect Our Music」キャンペーン アーティスト賛同ポスター制作

当協会では、昨年秋から「Respect Our Music」キャンペーンを展開しています。このキャンペーンは、不正コピー、不正アップロード対策として、音楽関連団体、作詞作曲家、アーティスト、販売店、音楽専門メディアなど音楽業界の皆様の幅広いご協力のもと、音楽を正しく聴いて頂くことの大切さを広く社会に理解して頂くことを目的とするものです。

当協会では、このキャンペーンの一環として、昨年に引き続き「LOVE MUSIC? SAVE MUSIC!」をキーワードとした店頭掲示用ポスターを1万部制作致しました。今年は昨年の122組を大幅に上回る、邦楽144組、洋楽37組、計181組ものアーティストのご賛同、ご協力を頂きました。このポスターは、12月上旬から、レコード・CD販売店、レンタル店、小中高大学の教育現場等で広く掲示される予定です。

業界紙説明会開催

11月19日、当協会会議室において、業界紙説明会が開催されました。

各紙から13名の方にご出席頂いた今回の説明会は、田中純一事務局長の挨拶から始まり、「Respect Our Music」キャンペーン、「聴いて観よう! 音楽DVD」キャンペーン、今年7月度から基準が改定されたゴールド・アルバム等認定について説明が行われました。

「廃盤CD大ディスカウントフェア レコードファン感謝祭2003」終了報告

当協会加盟24社は、11月6日～11月19日の2週間、インターネットを利用した通信販売による「廃盤CD大ディスカウントフェア ～レコードファン感謝祭2003～」を開催しました。

この廃盤セールは、当協会加盟のレコード会社各社からCD、レコードを特別価格にて提供するもので、1992年から毎年秋に実施しており、今年で第12回目を迎えました。一昨年からは、インターネット通信販売の形式にて実施しています。

以下に、今回のセールの結果概要をお知らせ致します。

- 出品タイトル数 3,618タイトル
- 出品枚・巻数 113,711枚・巻
- 登録件数 43,351件
- 購入件数 8,134件
- 総売上枚・巻数 39,139枚・巻
- 総売上金額(税込) 34,075千円
- 平均購入金額(税込) 4,189円
- 平均購入枚・巻数 4.8枚・巻

IFPI中央理事会開催

「IFPI中央理事会」が、11月12日、ニューヨークで開催されました。

今回の会議では、IFPIが進めている違法対策についての現状報告と、今後の方向性の確認が行われました。

特に、インターネット上の音楽違法利用対策として世界中で推進されているキャンペーンの一環として行われ、大きな成果を上げているアメリカの状況が、RIAA(アメリカレコード協会)から報告されました。

RIAJ、情報処理教育研究集会に参加

「平成15年度 情報処理教育研究集会」が、11月7日、8日の2日間、札幌の北海道大学において開催されました。

当協会は、特別講演の「著作権問題と著作権関連情報」に講師を派遣し、全国から参加した約500名の情報教育担当教員の方に対して、①教育の過程で著作物等を利用する場合の注意点とガイドライン策定の動き、および、②CD等に記録された音楽を情報教育の過程で利用する場合の注意点について講演を行いました。

また、著作権啓発リーフレットと“LOVE MUSIC? SAVE MUSIC!” ステッカーを配布し、著作権問題に対

する関心を深めて頂くことができました。

第20回IFPIアジア太平洋地域評議員会議開催

11月18日、中国・北京において「IFPIアジア太平洋地域評議員会議」が開催されました。20回目となる今年の会議には、IFPI事務局の他、アジア太平洋地域計12カ国のIFPIナショナルグループから代表が参加しました。中国からは、中国音像協会や5メジャー中国事務所等のレコード会社から代表が出席しました。当協会もこの会議に参加し、各国の海賊版対策の状況やレコード製作者の権利に関わる法制問題などについて意見交換を行いました。

会員社移転のお知らせ

当協会会員社の(株)トライエムが下記に移転しましたので、お知らせいたします。

新住所(11月10日より)
〒107-0062
東京都港区南青山2-24-15 青山タワービル6F
TEL:03-5772-4811

新年会の開催について

平成16年新年会を下記要領にて開催致します。

- 日時:平成16年1月5日(月)
開場15時、開宴15時30分
- 場所:ホテルニューオータニ「芙蓉の間」

● 2003年11月会議メモ

- 11・5 マーケティング委員会
- 11・7 二次使用料委員会
- 11・10 レコード倫理審査会
- 11・11 レンタルレコード委員会
- 11・20 広報委員会
- 11・21 執行委員会
- 11・28 理事会

IFPIがウェブキャスト事業者のための ライセンス・ルールを提供

IFPI(国際レコード産業連盟)は、11月11日、ウェブキャスト事業者が簡便な手続きでレコード利用のライセンスが得られる、史上初の「国際的ルール」を発表しました。

これは、ストリーム方式で音楽番組を提供するウェブキャスト事業者が、その国のレコード権利管理団体に1回申請して利用の許諾が得られれば、世界中のストリーム配信がカバーされるという内容(ワンストップ・ライセンス)で、画期的なものとしてオンライン音楽業界に歓迎されています。

今回のライセンス・ルールは、双方向サービス、オンデマンド・ダウンロード・サービス、地上波と同じコンテンツを同時配信する“サイマルキャスト(同時放送)”には適用されませんが、成長が期待されるストリーム音楽配信のウェブキャストに適用されるものです。

IFPIの調べによると、アメリカ国内だけでも、ライセンスを取得したウェブキャスト事業者は1,250社に達しており、さらにヨーロッパの大手30社と、世界中の小規模事業者数百社にこの協定が適用される見込みです。

今回のルールについて、ブリュッセルを本拠地とするヨーロッパ・デジタル・メディア協会理事長のマルコ・ルップ氏は、「良い方向に一步前進した」とコメントしています(同協会は、Vitaminic、Real Networks EuropeやフランスのWanadoo、virginmega.frのような音楽をウェブ放送する国際的なオンライン・サービスを代表しています)。同氏はまた、「まだ実際の運用は始まってないが、今後大いに期待できる」とも語っています。

今回のルールによって、最近複数のヨーロッパ市場に参入した、Radio@AOLやYahoo's Launchなどのアメリカの企業も事業を推進しやすくなると考えられます。

また、Tiscali Music Clubといった、ラジオ

局を通じてストリーム音楽をウェブキャストする汎ヨーロッパのダウンロード・サービス・プロバイダーも、今回の協定を利用することが可能になります。

「非インタラクティブなコンテンツがダウンロード・サービス契約の一部となっている場合であれば、サービス・プロバイダーは個々の権利者と交渉してもよいが、ワンストップ・ライセンスの方がはるかに便利だろう」と、IFPIロンドン事務局の法律顧問であるローリ・レシャル氏はコメントしています。

何カ国ものオンラインユーザーをターゲットとするウェブキャスト事業者にとって、国際的なルールは必要不可欠でした。IFPIは、今回のルール確立のために、アメリカのSound Exchange、イギリスのPPL、フランスのSCPPやドイツのGVLといった権利の集中管理団体に働きかけを行いました。

これまでは各国の団体と個別に交渉しなければならなかったウェブキャスト事業者は、一カ国の団体のみを通じて複数市場へ参入するために必要な権利処理をできることとなります。

この新しいルール運用への参加は10月下旬から受付が開始されており、最初に署名する権利者団体は、フィンランドのGramexとなる予定です。

レシャル氏は、「主要な音楽市場を代表する権利者団体は、数週間以内に署名するだろう」と述べています。

IFPI会長兼CEOのジェイ・バーマン氏は、「2001年の9月から実施されているサイマルキャストに関する協定に署名した33カ国は、今回のルールを承認するだろう」と期待しています。

同氏はまた「通常、団体がレコード会社の会員から権利委任を受けるためには時間がかかる。しかし今回の協定は、世界の50パーセント以上のレコード会社を代表することになるだろう。これは、長い道のりを歩み続けた結果だ」と述べています。

(ビルボード 2003.11.22)

Monthly Production Report

2003年10月度レコード生産実績

10月度のオーディオ生産実績は、先月度に引き続いてCDシングルが伸長した他、CDアルバムも、数量で前年同月比111%の2,007万枚、金額で同103%の274億円となりました。また、音楽ビデオも好調だったことから、オーディオ・音楽ビデオの合計でも2003年7月度以来の3ヵ月ぶりに前年同月比を上回り、数量で前年同月比123%の3,149万枚、金額で同109%の370億円となりました。

● オーディオレコード

(数量:千枚・巻/金額:百万円)

			10月実績						2003年(1月~10月)累計					
			数量	構成比	前年 同月比	金額	構成比	前年 同月比	数量	構成比	前年 同期比	金額	構成比	前年 同期比
シ ン グ ル	8cmCD	邦	2,665	9	304%	259	1	70%	14,937	6	228%	2,603	1	80%
		洋	1	0	33%	1	0	511%	612	0	1981%	48	0	671%
		計	2,667	9	303%	260	1	70%	15,549	6	236%	2,650	1	81%
	12cmCD	邦	5,379	18	129%	4,036	12	128%	56,479	21	91%	42,984	13	90%
		洋	95	0	86%	78	0	86%	894	0	72%	748	0	80%
		計	5,475	19	128%	4,115	12	126%	57,374	22	90%	43,732	14	90%
小計	邦	8,044	27	160%	4,296	13	122%	71,417	27	104%	45,586	14	90%	
	洋	97	0	84%	79	0	87%	1,506	1	119%	796	0	84%	
	計	8,141	28	158%	4,375	13	121%	72,923	28	104%	46,382	15	90%	
12cmCD アルバム	邦	13,284	45	119%	19,189	58	116%	120,435	46	90%	177,219	56	85%	
	洋	6,787	23	99%	8,235	25	82%	60,217	23	96%	85,655	27	95%	
	計	20,071	68	111%	27,424	83	103%	180,652	68	92%	262,874	82	88%	
CD 合計	邦	21,328	73	132%	23,485	71	117%	191,852	72	95%	222,805	70	86%	
	洋	6,884	23	99%	8,314	25	82%	61,723	23	96%	86,451	27	95%	
	計	28,212	96	122%	31,799	96	105%	253,575	96	95%	309,256	97	88%	
アナログ ディスク	邦	40	0	99%	45	0	110%	379	0	75%	418	0	73%	
	洋	6	0	40%	7	0	44%	73	0	62%	80	0	64%	
	計	46	0	84%	52	0	91%	452	0	73%	498	0	71%	
カセット テープ	邦	853	3	90%	775	2	93%	9,854	4	93%	8,111	3	96%	
	洋	6	0	346%	4	0	219%	23	0	48%	17	0	40%	
	計	859	3	91%	779	2	93%	9,877	4	93%	8,128	3	95%	
その他	邦	165	1	1145%	306	1	1963%	395	0	54%	486	0	292%	
	洋	32	0	34%	70	0	39%	336	0	219%	542	0	183%	
	計	196	1	181%	376	1	193%	730	0	83%	1,028	0	222%	
総合計	邦	22,386	76	130%	24,611	75	117%	202,480	77	94%	231,819	73	86%	
	洋	6,927	24	98%	8,395	25	81%	62,154	23	96%	87,091	27	95%	
	計	29,313	100	121%	33,006	100	105%	264,634	100	95%	318,910	100	89%	

● 音楽ビデオ

		10月実績						2003年(1月~10月)累計					
		数量	構成比	前年 同月比	金額	構成比	前年 同月比	数量	構成比	前年 同期比	金額	構成比	前年 同期比
DVD		2,035	94	202%	3,707	92	175%	19,276	91	246%	35,105	88	174%
LD・その他		67	3	93%	115	3	77%	828	4	79%	1,486	4	67%
テープ		69	3	43%	204	5	51%	1,174	6	62%	3,353	8	67%
合計		2,172	100	175%	4,026	100	151%	21,278	100	197%	39,943	100	146%

● オーディオ/音楽ビデオ合計

		10月実績						2003年(1月~10月)累計					
		数量	構成比	前年 同月比	金額	構成比	前年 同月比	数量	構成比	前年 同期比	金額	構成比	前年 同期比
オーディオ		29,313	93	121%	33,006	89	105%	264,634	93	95%	318,910	89	89%
音楽ビデオ		2,172	7	175%	4,026	11	151%	21,278	7	197%	39,943	11	146%
合計		31,485	100	123%	37,032	100	109%	285,912	100	99%	358,853	100	93%

● ビデオ(含音楽ビデオ)

		10月実績						2003年(1月~10月)累計					
		数量	構成比	前年 同月比	金額	構成比	前年 同月比	数量	構成比	前年 同期比	金額	構成比	前年 同期比
DVD		12,338	94	260%	11,726	82	156%	81,790	90	197%	106,997	77	160%
LD・その他		87	1	73%	131	1	75%	1,115	1	73%	1,721	1	65%
テープ		635	5	58%	2,380	17	61%	8,088	9	84%	30,146	22	87%
合計		13,060	100	220%	14,237	100	123%	90,993	100	173%	138,864	100	133%

● オーディオ/ビデオ合計

		10月実績						2003年(1月~10月)累計					
		数量	構成比	前年 同月比	金額	構成比	前年 同月比	数量	構成比	前年 同期比	金額	構成比	前年 同期比
オーディオ		29,313	69	121%	33,006	70	105%	264,634	74	95%	318,910	70	89%
ビデオ		13,060	31	220%	14,237	30	123%	90,993	26	173%	138,864	30	133%
合計		42,373	100	140%	47,243	100	110%	355,627	100	107%	457,773	100	99%

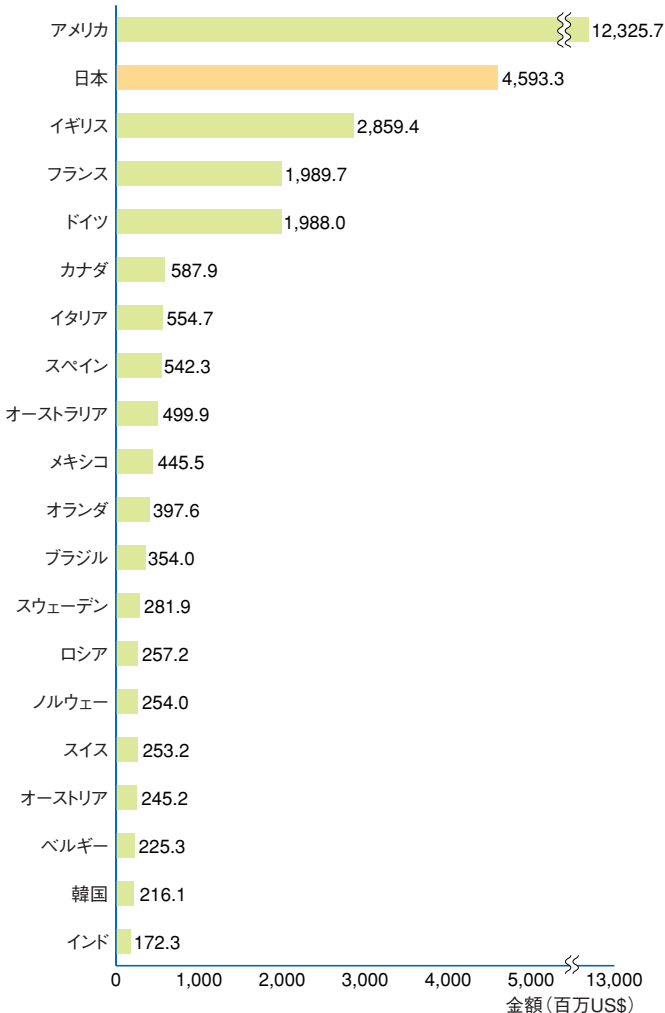
備考 1. 上記実績は、会員会社「24社」の集計。当会員会社が受託した非会員社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
※オーディオレコードのその他はSACD、DVDオーディオ、DVDミュージック、MDの合計。

2002年音楽パッケージマーケットデータ上位20カ国

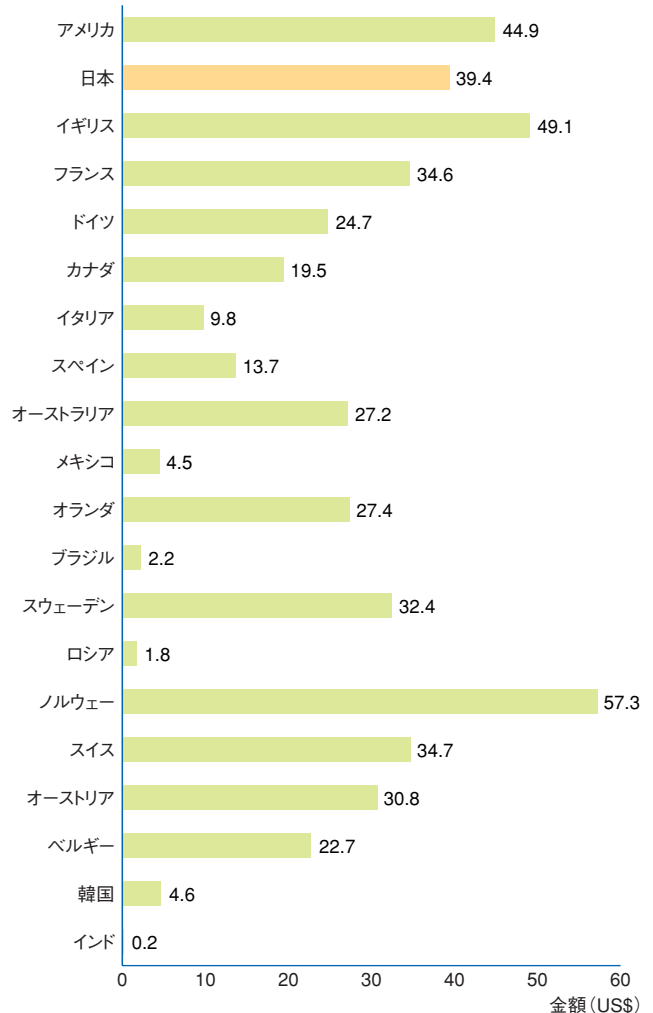
IFPI (国際レコード産業連盟) が発表した世界音楽売上トップ20カ国における、1人当たりの年間音楽パッケージ購入状況を比較しました。下記のグラフの通り、日本は年間購入枚数で第9位、購入金額では第4位となりました。

順位	国名	売上金額 (百万US\$)	世界市場に おけるシェア(%)	1人当たりの年間購入枚数(枚・巻)			1人当たりの年間購入金額(US\$)		
				2002年	2001年	02/01 (%)	2002年	2001年	02/01 (%)
1	アメリカ	12,325.7	39.8	3.0	3.3	90.9	44.9	48.1	93.3
2	日本	4,593.3	14.8	2.2	2.4	91.7	39.4	44.7	88.1
3	イギリス	2,859.4	9.2	4.2	4.2	100.0	49.1	48.3	101.7
4	フランス	1,989.7	6.4	2.6	2.5	104.0	34.6	31.8	108.8
5	ドイツ	1,988.0	6.4	2.6	2.8	92.9	24.7	26.2	94.3
6	カナダ	587.9	1.9	1.9	2.1	90.5	19.5	22.1	88.2
7	イタリア	554.7	1.8	0.9	0.9	100.0	9.8	9.2	106.5
8	スペイン	542.3	1.8	1.6	2.0	80.0	13.7	15.5	88.4
9	オーストラリア	499.9	1.6	2.9	3.0	96.7	27.2	27.8	97.8
10	メキシコ	445.5	1.4	0.5	0.6	83.3	4.5	5.7	78.9
11	オランダ	397.6	1.3	2.0	2.2	90.9	27.4	28.0	97.9
12	ブラジル	354.0	1.1	0.5	0.5	100.0	2.2	2.6	84.6
13	スウェーデン	281.9	0.9	3.2	3.2	100.0	32.4	32.5	99.7
14	ロシア	257.2	0.8	0.8	0.8	100.0	1.8	1.5	120.0
15	ノルウェー	254.0	0.8	3.5	3.1	112.9	57.3	48.6	117.9
16	スイス	253.2	0.8	3.2	3.2	100.0	34.7	33.5	103.6
17	オーストリア	245.2	0.8	1.9	2.2	86.4	30.8	31.9	96.6
18	ベルギー	225.3	0.7	2.0	2.2	90.9	22.7	23.3	97.4
19	韓国	216.1	0.7	0.6	0.9	66.7	4.6	5.6	82.1
20	インド	172.3	0.6	0.2	0.2	100.0	0.2	0.2	100.0

●2002年売上金額



●年間購入金額



資料：IFPI発行 the recording industry in numbers 2003

Gold Album +... 認定

2003年10月度

10月度ゴールドアルバム等認定では、サザンオールスターズ「海のYeah!!」が4ミリオンに、DREAMS COME TRUE「DREAMS COME TRUE GREATEST HITS “The SOUL”」が3ミリオンに認定されました。

■ 邦楽

アルバム

● 4ミリオン (400万枚～)				
海のYeah!!	サザンオールスターズ	1998.06.25	V	
● 3ミリオン (300万枚～)				
DREAMS COME TRUE GREATEST HITS “The SOUL”	DREAMS COME TRUE	2000.02.14	ES	
● トリプル・プラチナ (75万枚～)				
Every Best Single 2	Every Little Thing	2003.09.10	AVT	
● ダブル・プラチナ (50万枚～)				
ケツノポリス 3	ケツメイシ	2003.10.01	TF	
MAGNUM COLLECTION “SLOW”	福山雅治	2003.08.27	BMG	
Air/Cook/Sky	矢井田 瞳	2003.10.29	TO	
● プラチナ (25万枚～)				
伝えたい言葉～涙のおちる場所～	I WISH	2003.10.01	SE	
Longtime Favorites	竹内まりや	2003.10.29	WJ	
初秋	浜田省吾	2003.09.26	SE	
Next World	BoA	2003.08.27	AVT	
「機動戦士ガンダムSEED」COMPLETE BEST	V.A.	2003.09.26	AI	
● ゴールド (10万枚～)				
A.I.R	愛内里菜	2003.10.15	GZ	
TOKYO'S FINEST	ZEEBRA	2003.09.18	PC	
空の景色	夏川りみ	2003.03.26	V	
ビギンの一五一会	BEGIN	2003.07.24	TE	
星空のライブ～The Best of Acoustic Ballade～	MISIA	2003.09.25	AVT	
一人ジェンガ	矢井田 瞳	2003.09.10	TO	
LOVE STORIES I	V.A.	2003.10.01	PC	
LOVE STORIES II	V.A.	2003.10.01	PC	

シングル

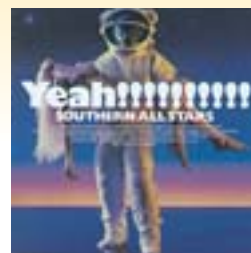
● プラチナ (25万枚～)				
BEAUTIFUL DREAMER/STREET LIFE	GLAY	2003.10.16	TO	
夏の思い出	ケツメイシ	2003.07.16	TF	
メリッサ	ボルノグラフィティ	2003.09.26	SE	
● ゴールド (10万枚～)				
いい日旅立ち・西へ	鬼束ちひろ	2003.10.29	TO	
ビバ★ロック	オレンジレンジ	2003.10.22	SR	
Power Of Smile	KOKIA	2003.09.24	V	
僕の手紙	ZONE	2003.10.29	SR	
イミテーション・ゴールド	TAK MATSUMOTO featuring 倉木麻衣	2003.10.08	BM	
AMBITIOUS JAPAN!	TOKIO	2003.10.01	UM	
DOUBLE (DOUBLE/Midnight Parade/Milky Way～君の歌～)	BoA	2003.10.22	AVT	
歩行者優先/濃	ゆず	2003.10.22	SN	
TALI	YOSHII LOVINSON	2003.10.01	TO	

■ 洋楽

アルバム

● ゴールド (10万枚～)				
underworld 1992-2002	underworld	2003.10.16	C	
ザ・ヴェリー・ベスト・オブ・シェリル・クロウ	シェリル・クロウ	2003.10.10	UM	
MFZB	ZEBRAHEAD	2003.09.10	SI	
ギルティ	BLUE	2003.10.29	TO	
ディス・レフト・フィールズ・ライト～グレイテスト・ヒッツ	ボン・ジョヴィ	2003.10.31	UM	
Melodies - The Best of AOR	V.A.	2003.07.16	WJ	

※AI:ソニー・ミュージックアソシエイテッドレコーズ/AVT:エイベックス/BG:ビーグラムレコーズ/BM:パーミロンレコード/BMG:BMGファンハウス/C:コロムビアミュージックエンタテインメント/CL:クライマックスエンタテインメント/CR:日本クラウン/DF:デフスターレコーズ/EP:ゼティマ/ES:EPICレコードジャパン/FL:フォーライフミュージックエンタテイメント/GZ:ギザ/JA:ジェイ・ストーム/JE:ジャニーズ・エンタテイメント/K:キングレコード/KS:キューンレコード/PAR:プライエイド・レコーズ/PC:ポニーキャニオン/PK:ピッコロタウン/PY:プラチア・エンタテインメント/SE:エスエムイーレコーズ/SI:ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル/SN:SENHA & CO./SR:ソニー・ミュージックレコーズ/TE:テイチクエンタテインメント/TF:トイズファクトリー/TJC:徳間ジャパンコミュニケーションズ/TO:東芝EMI/UM:ユニバーサルミュージック/V:ビクターエンタテインメント/WJ:ワーナーミュージック・ジャパン/XL:アンリミテッドグループ/YR:アール・アンド・シー・ジャパン



海のYeah!!
サザンオールスターズ



GREATEST HITS “The SOUL”/
DREAMS COME TRUE



Every Best Single 2/
Every Little Thing



ケツノポリス3/
ケツメイシ



MAGNUM COLLECTION “SLOW”/
福山雅治



Air/Cook/Sky/
矢井田 瞳

※ダブル・プラチナ (50万枚) 以上の認定を受けた作品のジャケット写真を紹介します。

協会からのお知らせ

昨年に引き続き、「Respect Our Music」キャンペーンのアーティスト賛同ポスターが完成しました。皆様も是非ご活用ください。
お問い合わせは広報部 (Tel. 03-3541-4433) までお願いします。

私たちの音楽を大切に聴いて下さい。

I WISH	氣志團	Skoop On Somebody	DREAMS COME TRUE	FLOW
愛内里菜	KICK THE CAN CREW	鈴木雅之	中島美嘉	BoA
aiko	杏子	スピッツ	長瀬 剛	ボルノグラフィティ
安倍なつみ	清貴	SMAP	夏川りみ	BON-BON BLANCO
安室奈美恵	Kiroro	3B LAB.☆	HYDE	MY LITTLE LOVER
綾小路きみまろ	KinKi Kids	SOULHEAD	元 ちとせ	松浦亜弥
嵐	キングギドラ(R)	Sowelu	はなわ	松 たか子
YeLLoW Generation	キンモクセイ	SOPHIA	浜崎あゆみ	MAX
175R	久保田利伸	SOUL'd OUT	浜田省吾	松任谷由実
今井絵理子	KUMACHI	ZONE	林 明日香	MISIA
w-inds.	GLAY	高橋真梨子	林原めぐみ	Mr.Children
上戸 彩	globe	竹内まりや	HALCALI	水森かおり
上原多香子	ケツメイシ	タッキー&翼	BUMP OF CHICKEN	光永亮太
宇多田ヒカル	CHEMISTRY	DA PUMP	水川きよし	MINMI
ウルフルズ	柿田来未	DOUBLE	BEGIN	モーニング娘。
EXILE	KOKIA	玉置成実	B-DASH	森山直太朗
Every Little Thing	GO! GO! 7188	Chara	HITOE	MONDO GROSSO
m-Ilo	ゴスペラーズ	TUBE	一青 窈	
岡本真夜	後藤真希	チン☆パラ	hitomi	矢井田 瞳
奥田民生	コブクロ	day after tomorrow	氷室京介	山崎まさよし
小田和正	小柳ゆき	DMBQ	平井 堅	山下達郎
鬼束ちひろ	the brilliant green	T.M.Revolution	hiro	YUKI
orange pekoe	椎名林檎	テツandトモ	広瀬香美	ゆず
オレンジレンジ	shela	天童よしみ	V6	RAG FAIR
甲斐よしひろ	島谷ひとみ	Do As Infinity	福耳	LOVE PSYCHEDELICO
Gackt	SHAKALABBITS	東京スカパラダイスオーケストラ	藤井フミヤ	L'Arc-en-Ciel
kayoko	スガ シカオ	TOKIO	藤本美貴	Lead
川中美幸	スキマスイッチ	徳永英明	PUSHIM	RIP SLYME
河村隆一	杉山清貴	Tommy February [®]	FLAME	LIV
				(50音順)
アヴリル・ラヴィーン	ケリー・クラークソン	sweetbox	フィル・コリンズ	メイヤ
アラニス・モリセツト	サンタナ	ステイシー・オリコ	フェイス・ヒル	リンキン・パーク
アリスIA・キーズ	ジャネット・ジャクソン	セリーヌ・ディオーン	ブリトニー・スピアーズ	レッド・ホット・チリ・ペッパーズ
ウエストライフ	ジャミロクワイ	Dido	BLUE	レニー・クラヴィッツ
エアロスミス	Joe	TLC	ベイビーフェイス	ザ・ローリング・ストーンズ
エンヤ	ジョン・ウィリアムズ	DESTINY'S CHILD	マドンナ	(50音順)
グリーン・デイ	ショーン・ボール	ノディーシャ	ミシェル・ブランチ	
KEIKO LEE	シンプル・プラン	VANGELIS	ミッシェル・エリョット	

**LOVE MUSIC?
SAVE MUSIC!**

音楽の不正コピーや不正アップロードは犯罪になることを知っていますか？

他人のために市販の音楽CDから無断でコピーする、音楽を無断でインターネット上に公開（アップロード）する、これらは著作権法に違反する行為として厳しい処罰の対象となります。そして、こうした不正利用は、アーティストや作曲家、作曲家など、音楽を創造する人たちに深いダメージを与えているのです。

(社)日本音楽著作権協会 (社)日本音楽出版協会 (社)音楽著作権センター (社)日本レコード協会 (社)日本音楽事業者協会 (社)音楽出版協会 (社)音楽制作者連盟
問い合わせ先 (社)日本レコード協会 広報部 TEL:03-3541-4433 URL: http://www.riaj.or.jp/

Respect Our Music

Respect Our Music

THE RECORD No.529 2003年12月号
社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 依田 巽
編集人 田辺 攻
発行日 2003年12月10日
発行 社団法人 日本レコード協会
〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-3 日鐵木挽ビル2F
TEL. 03-3541-4411 (代) FAX. 03-3541-4460 (代)
URL: http://www.riaj.or.jp/

制作協力 株式会社エフビーアイ・コミュニケーションズ

編集後記

7月号の全面リニューアルから半年が経ちました。編集についてはまだまだ勉強の毎日ですが、来年もどうぞよろしくお願ひいたします。
(R.O)